

旺文社

早引き国語辞典

中一時代 13
中二時代 14
中三時代 15
中高時代

螢雪短大
大学受験ラジオ
講座TEXT
OMNI

JK 高二時代
KEISETSU
(鎌倉時代)
(オムニ)

(蠻雪時代)

OMNI
(オムニ)

(小・中・高)参考書
 教科書・語学教材
 辞典・事典
 文庫・児童書・スポーツ書
 学習図鑑・科学書
 チャイルドエポカ

教科別学習大事典(ジュニア・エポカ)
旺文社百科事典(エポカ)

日本歴史展
戦国・幕末の群像
戦略・戦術シリーズ

大学受験ラジオ講座

模擬試験・実力テスト
全国学芸科学コンクール

〔関連団体〕

財団法人 日本英語教育協会
（通信教育、雑誌・放送（百万人の英語））
財団法人 日本LLI教育センター（LLI教室）

●図書案内（小、中、高・一般別）送呈
〒162 東京都新宿区横寺町旺文社

旺			文		社
赤		尾	一		夫
中		山	行		雄
日	新	印	刷	株	式
開	成	印	刷	株	式
株	式	會	社	市	川
常	磐	紙	器	株	製
株	式	會	社	研	式
					文

者人人所
行集刷
編癸編印
付製製編

發行所 株式會社 旺文社
162 東京都新宿區橫寺町
電話 (編集) 03-266-6356
(販売) 03-266-6410

ISBN4-01-077504-1 409113
(許可なしに転載、複製することを禁じます)

©旺文社 1984
Printed in Japan

乱丁・落丁はお取りかえますので本社に直接お申し出ください。

はじめに

一般に、どんなときによく辞書を引くかを調べますと、「漢字を確かめるとき」というのと「使うことばを探したり確認したりするとき」という二つの答えがかなり多数を占めます。

日常、手紙を書いたり、書類を作ったりする際、私たちは自分の正確に覚えてゐる漢字が意外に少ないことに気がつきます。知つてゐると思つてゐた漢字も、いざ書く段になると、細部についてはどうも不確かで、自信がもてないということも多いものです。また、この場面にふさわしい語は、たしかこの語だと思つて確かめておきたい、といったこともよくあります。

語の意味を十分に調べたいときには、その目的に合つた辞典を求めればよいわけですが、「漢字を確かめる」とか「使う語を探したり確認したりする」場合は、語釈は簡単で、できるだけ手早く、気軽に引ける辞典が望まれます。

本書は、まさにそうした場合の利用に応じられるように配慮して編集したものです。見出し語一つ一つにふりがなを付し、できるだけ早く引けるよう、各頁、各段に検索見出しをつけ、また、まぎらしい同訓（音）の語を枠囲みにして解説するなど、内容には種々の工夫をこらしております。

日常生活によく使用される語を中心に、約五万二千語を収録し、小辞典といえども必要十分な語数と擁しております。

家庭で、職場で、本書がみなさんに親しまれ、活用されることを切望してやみません。

凡例

〔一〕 収録語

日常語を中心に、通常、漢字で書き表す語句約五万二千語を厳選し、収録しました。

〔二〕 見出し漢字

常用漢字と、常用漢字以外の漢字とを、字体で区別しました。

例

隔靴搔痒 かつか そうよう はがゆ いこと

〔三〕 配列

見出し語は、次の順序によって配列しました。

- (1) 五十音順
- (2) 清音→濁音→半濁音の順
- (3) 促音・拗音→直音の順

(4) 同じ読み方の語が続く場合は、見出し漢字字数の少ないものを先に、漢字字数が同じものとしては、一字目の漢字の画数順に配列しました。

例

株 かぶ ―を分ける。
 下部 かぶ ―を賣う。
 歌舞 かぶ 下の部分。下の方。―組織
歌と舞
 (下…3画)
 (歌…14画)

〔四〕 ふりがな

- (1) 見出し漢字の読み方は、現代仮名づかいで、ふりがなで示し、外来語は、片仮名で示しました。
- (2) 見出しに二通り以上の書き表し方があるものは、原則として下の漢字のふりがなを省略しました。

例

荷担・加担 かたん 味方する

〔五〕 語釈、囲み記事

- (1) 見出し語のすべてに、簡単な訳、または使い方の例を示してあります。―は、見出し部分を表します。

例

関心 かんしん 心にかける。―を持つ

- (2) 同訓異字・同音異義語で、使い分けのまぎらわしいものには、特に囲み欄を設けて、その用法と使い方を示しました。

付録

巻末には、付録として次の項目を掲げました。

- 書き誤りやすい熟語一覧
- 読みのむずかしい地名
- 常用漢字音訓一覧
- 付表
- 人名用漢字一覧



悪風 ああくふう 悪い風俗・風習に広がる
悪文 ああくぶん わかりにくい文章
悪弊 ああくへい 悪いならわし
悪癖 ああくへく 悪いくせ
悪法 ああくはふ 悪い法律。またまた法なり
悪報 ああくほう 悪事のむくい
悪魔 ああくま 人の心をまとわす魔もの
飽く迄 ああくまで どこまでも
悪名 ああくめい あくめい。高い
悪夢 ああくむ 不吉な夢。うなされる
倦む・厭む ああくむ・ああくむ 嫌になる
悪名 ああくめい 悪い評判。をさせる
悪役 ああくやく 悪人の役
悪友 ああくゆう 悪い友だち

胡座鼻 あぐらばな 横に広がった鼻
揚縁網 あがりえん 巻き網の一種
悪霊 あくりよう 死人の霊。たたりをする
握力 かりよく 物を握る力
明くる あきくる 一年。一日
悪例 あくれい 悪い先例
悪路 あくろ 悪い道路
朱・緋 あかいいろ あかい色
明け あけ 夜明け。一明星
揚げ足・挙げ あがりあし 一を取る
揚げ油 あがりあぶら 揚げものに使う油
上げ板 あがりいた あげ板
上昇 あがり 上昇させる
揚句・卒句 あがりくち 夜明けに鳴くからす

明け暮れる あけぐ 読書
上げ下げ あがりさげ 腕の一種
上げ潮 あがりうしほ 満ち潮
上げ部 あがりぶ 釣り上げ開ける部
明け透け あけとけ 包み隠さない
上げ底 あがりぞこ 底が外見より高いもの
揚げ代 あがりしろ 芸者・遊女をよぶ代金
揚げ出し あがりだし 一豆腐
開け明 あけあけ 陣子の
揚げ あがり 揚げ出す
揚げ超 あがりこ 揚げがす
揚げる あがり 揚げがす
論 あがり あれこれ論ず
明けて あけ 年があらた
挙げて あがり 残らず。す
揚げ戸 あがりこ 押し上げて
揚げ豆腐 あがりとうふ 揚げ豆腐

揚げ鍋 あがりなべ べんごらな
明け荷 あけに 旅行用のつづらの一種
揚羽蝶 あがりは うのはちよう料の総称
開け放す あけはな 窓を
通草・木通 あけくさ 宿直などを終えて帰る
明け番 あけばん 取りはずし
上げ蓋 あがりふた 近現代日本の
曙 あけぼの 近代日本の
揚げ巻・総角 あがりまき 昔の子供の髪
揚げ幕 あがりまく 花道の出入り口の幕
揚げ窓 あがりまど つきあげ窓
揚げ物 あがりもの 油で揚げた食品
揚げ屋 あがりや 遊女をよんで遊ぶ家
明ける あけ 夜が一年
空ける あけ 家を。席
開ける あけ 窓を。包み

上げる あがり 棚の上に
挙げる あがり 犯人を
揚げる あがり てんぶらを
△上げる・挙げる・揚げる
「上げる」は「位置・資格・価値・程度などを高くする」の意
「頭を上げる」の意
「地位を上げる」の意
「益を上げる」の意
「一般的に広く使う」の意
「挙げる」は「よく見えるようにする」の意
「全部を出しつくす」の意
「手を挙げて」の意
「全校挙げて」の意
「揚げる」は「高い所へ向かわせる」の意
「てんぶらを揚げる」
「荷揚げ」などという。

阿漕 あこぎ どん欲で無慈悲
阿古屋貝 あこやかい 真珠貝
麻 あさ くわ科の一年草
朝霞 あさけ 夜明けからしばらくの間
朝風 あさかぜ 町・村の中の区画の名
浅黄 あさぎ 皮画にできるはん紋
朝明 あさめい 湖。経験があげがた
朝市 あさいち 朝開く野菜・魚などの市
麻糸 あさいと 麻の繊維で作った糸
麻裏 あさうら 麻布の裏地
朝起き あさおき 早起き
朝顔 あさがお ひるがお料の一年草
朝駆 あさかけ 朝早く馬を走らせる
朝霞 あさけ 朝立つかすみ
朝風 あさかぜ 朝吹くかぜ
浅黄 あさぎ うすい黄色

浅葱 あさぎ うすいあい色
朝霧 あさぎり 朝立ちこめる水色。一裏
浅草海苔 あさくさ 紅藻類の海藻
浅沓 あさくさ 桐材で浅く彫ったくつ
朝曇り あさくもり 朝の間にうす黒い
浅黒い あさくろ 朝の食事
朝餉 あさけ 朝の食事
朝餉 あさけ ばかにして笑う
朝酒 あさざけ 朝から酒を飲むこと
浅茅生 あさちゅう ちがやがはえている所
朝潮 あさうしほ 朝満ちてくる海・川の水
浅瀬 あさせ 浅いところ
浅知恵 あさちえ あさはかな知恵
浅葱 あさぎ ゆり科の多年草
朝月夜 あさづきよ 朝まで残る月
浅漬 あさづけ 早づけ。べつたらづけ
明後日 あさあした あすのつぎの日



あせよ 汗除け 肌着の上に あてるもの
あせよ 焦る いらだてる気
あせよ 褪せる つやが失
あせよ 啞然 驚かされてこ
あせよ 阿仙婆 インド産の
あせよ 亜属 生物の分類
あせよ 彼処 例のと
あせよ 遊び人 定職がなく
あせよ 遊び女 遊女
あせよ 遊ぶ 好きな事
あせよ 朝臣 昔の四位以上
あせよ 仇 かたき 恨
あせよ 徒 むだ 好意が
あせよ 姍姍 ながまの
あせよ 価 美しい
あせよ 値 ねだん 本の
あせよ 価値 商品の
あせよ 暖かい 暖かい
あせよ 暖かい 暖かい

あせよ 汗除け 肌着の上に あてるもの
あせよ 焦る いらだてる気
あせよ 褪せる つやが失
あせよ 啞然 驚かされてこ
あせよ 阿仙婆 インド産の
あせよ 亜属 生物の分類
あせよ 彼処 例のと
あせよ 遊び人 定職がなく
あせよ 遊び女 遊女
あせよ 遊ぶ 好きな事
あせよ 朝臣 昔の四位以上
あせよ 仇 かたき 恨
あせよ 徒 むだ 好意が
あせよ 姍姍 ながまの
あせよ 価 美しい
あせよ 値 ねだん 本の
あせよ 価値 商品の
あせよ 暖かい 暖かい
あせよ 暖かい 暖かい

あせよ 汗除け 肌着の上に あてるもの
あせよ 焦る いらだてる気
あせよ 褪せる つやが失
あせよ 啞然 驚かされてこ
あせよ 阿仙婆 インド産の
あせよ 亜属 生物の分類
あせよ 彼処 例のと
あせよ 遊び人 定職がなく
あせよ 遊び女 遊女
あせよ 遊ぶ 好きな事
あせよ 朝臣 昔の四位以上
あせよ 仇 かたき 恨
あせよ 徒 むだ 好意が
あせよ 姍姍 ながまの
あせよ 価 美しい
あせよ 値 ねだん 本の
あせよ 価値 商品の
あせよ 暖かい 暖かい
あせよ 暖かい 暖かい

あせよ 汗除け 肌着の上に あてるもの
あせよ 焦る いらだてる気
あせよ 褪せる つやが失
あせよ 啞然 驚かされてこ
あせよ 阿仙婆 インド産の
あせよ 亜属 生物の分類
あせよ 彼処 例のと
あせよ 遊び人 定職がなく
あせよ 遊び女 遊女
あせよ 遊ぶ 好きな事
あせよ 朝臣 昔の四位以上
あせよ 仇 かたき 恨
あせよ 徒 むだ 好意が
あせよ 姍姍 ながまの
あせよ 価 美しい
あせよ 値 ねだん 本の
あせよ 価値 商品の
あせよ 暖かい 暖かい
あせよ 暖かい 暖かい

あせよ 汗除け 肌着の上に あてるもの
あせよ 焦る いらだてる気
あせよ 褪せる つやが失
あせよ 啞然 驚かされてこ
あせよ 阿仙婆 インド産の
あせよ 亜属 生物の分類
あせよ 彼処 例のと
あせよ 遊び人 定職がなく
あせよ 遊び女 遊女
あせよ 遊ぶ 好きな事
あせよ 朝臣 昔の四位以上
あせよ 仇 かたき 恨
あせよ 徒 むだ 好意が
あせよ 姍姍 ながまの
あせよ 価 美しい
あせよ 値 ねだん 本の
あせよ 価値 商品の
あせよ 暖かい 暖かい
あせよ 暖かい 暖かい

あせよ 汗除け 肌着の上に あてるもの
あせよ 焦る いらだてる気
あせよ 褪せる つやが失
あせよ 啞然 驚かされてこ
あせよ 阿仙婆 インド産の
あせよ 亜属 生物の分類
あせよ 彼処 例のと
あせよ 遊び人 定職がなく
あせよ 遊び女 遊女
あせよ 遊ぶ 好きな事
あせよ 朝臣 昔の四位以上
あせよ 仇 かたき 恨
あせよ 徒 むだ 好意が
あせよ 姍姍 ながまの
あせよ 価 美しい
あせよ 値 ねだん 本の
あせよ 価値 商品の
あせよ 暖かい 暖かい
あせよ 暖かい 暖かい

あせよ 汗除け 肌着の上に あてるもの
あせよ 焦る いらだてる気
あせよ 褪せる つやが失
あせよ 啞然 驚かされてこ
あせよ 阿仙婆 インド産の
あせよ 亜属 生物の分類
あせよ 彼処 例のと
あせよ 遊び人 定職がなく
あせよ 遊び女 遊女
あせよ 遊ぶ 好きな事
あせよ 朝臣 昔の四位以上
あせよ 仇 かたき 恨
あせよ 徒 むだ 好意が
あせよ 姍姍 ながまの
あせよ 価 美しい
あせよ 値 ねだん 本の
あせよ 価値 商品の
あせよ 暖かい 暖かい
あせよ 暖かい 暖かい

あ	あふら	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま			



あんし

あんす

あんて

あんひ

い

いい

いいね

庵室

杏

安定

安否

慰安

易易

言い値

暗室

安静

安転

鞍部

威圧

唯唯

言い分

暗射

暗線

安堵

暗譜

亥

善い

言い返し

暗弱

安全

案頭

案文

医

言いい

言い様

庵主

暗然

行燈

案分

胃

言いい

言いい

暗主

安息

案内

按摩

威

言いい

言いい

安住

安息香

暗に

暗幕

異

言いい

言いい

案出

安息日

安寧

餡饅

帷

言いい

言いい

晏如

安打

安寧

安眠

意

言いい

言いい

暗唱

安泰

安寧

暗面

蘭

言いい

言いい

暗誦

暗澹

安寧

暗黙

意

言いい

言いい

暗証

安置

安寧

暗夜

遺愛

言いい

言いい

暗礁

安着

鞍馬

暗躍

帷

言いい

言いい

暗上

暗中

鞍馬

暗躍

帷

言いい

言いい

暗色

暗中

鞍馬

暗躍

帷

言いい

言いい

安心

安心

鞍馬

暗躍

帷

言いい

言いい

安心

安心

鞍馬

暗躍

帷

言いい

言いい

安心

安心

鞍馬

暗躍

帷

言いい

言いい

